

# 京都国際写真祭

# KYOTOGRAPHIE

2026 4.18 SAT-5.17 SUN

KYOTOGRAPHIE 2026  
1st. Press Release  
3rd. Dec. 2025

From letter to St-Loup, 1990. © Daido Moriyama/Daido Moriyama Photo Foundation.



## 「エッジ」が映し出す、写真、そして世界の現在地とは—— 日本、南アフリカ、ウルグアイ、フランス、パレスチナなど、 8カ国13組のアーティストの展示を開催

世界屈指の文化都市である京都で毎年開催されるKYOTOGRAPHIEは、街全体を写真の舞台へと変貌させます。アーティスト、キュレーター、セノグラファー、そして地元の職人との緻密なコラボレーションを通じて、歴史的建造物から現代建築のランドマークまで、象徴的かつ意外性のある空間でサイトスペシフィックな展示会を開催します。

2025年には297,658人の来場者を迎え、創設以来の総来場者数は210万人を超えました。

2026年は、テーマ「EDGE」のもと、8カ国から13組のアーティストによる多彩なプログラムを展開します。実験的な視覚表現、社会的・歴史的な周縁、都市やテクノロジーの臨界点、人類が自然と向き合う姿など、多様な視点が交差します。

KYOTO  
GRAPHIE

international  
photography festival

# 京都国際写真祭

## 14 PROGRAMS FROM 8 COUNTRIES

14th EDITION | 2026 04.18 SAT — 05.17 SUN

捉えどころがなく、常に変化を続ける「エッジ」は、物理的、社会的、心理的な様々な形をとって立ち現れる。断崖に身を置いたときの緊張感、衝突が起きる瀬戸際、周縁で生きること不安定さ、新しい先端を行く決意——そんな感覚を呼び起こすかもしれない。

写真もまた、「際(きわ)」をその内側に抱えている。

写真というメディアは誕生以来常に周縁に位置し、記録と芸術のあい、真実と虚構のあいだを揺れ動いてきた。いま、新たなテクノロジーの到来と画像が氾濫する時代のはざま、写真は臨界点に立たされている——先が見えない不安と、何かを発見する高揚感。その両者が共存する場所に。「エッジ」の向こう側に何があるのかは、誰にもわからない。

混沌とともに崩壊へと向かうのだろうか。

それともその「エッジ」は、別の世界へと誘う入口なのだろうか。

今年のKYOTOGRAPHIEは、この「あい」を、緊張と変化が同時に生まれる場所として描き出す。ラディカルな写真表現の試みの隣で、都市の衰退を見つめる作品があり、周縁に追いやられたコミュニティの記録は、植民地主義や領土争いといった現在進行形の問題と交錯する。

また、自然のもつ超越的な力にもレンズを向け、「ギリギリの際」に到達することで、視点・思考・創造の新たな地平がそっと開いていくのが見えてくる——たとえ環境的にも、政治的にも、個人的にも、もっとも暗い現実のさなかにあったとしても。「エッジ」は、不確実性に満ちた場所であり、同時に可能性の生まれる場所でもある。

そしてひとつの終わりが、次の始まりへと導かれる。

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭  
共同創設者／共同ディレクター  
ルシール・レイボーズ & 仲西祐介

今年のプログラムには、共同ディレクターによる最近の現地リサーチを受け、南アフリカから3名のアーティストが参加。南アフリカの写真表現の奥深さについて探求します。メインエキシビションに加えて、KYOTOGRAPHIEは今年も京都市内全域でトーク、ワークショップ、イベントなど、発見と対話を促す多彩なパブリックプログラムを展開します。キッズプログラム、マスタークラス、インターナショナルポートフォリオレビュー、パブリックイベント、フォトブックフェアの概要はプレスキットをご覧ください。

多様な写真表現を紹介するサテライトフェスティバル KG+、そして音楽とサウンドアートの祭典KYOTOPHONIEも同時開催し、京都の町が写真・音・人のつながりが生まれる「生きた舞台」となります。

### 開催概要

#### KYOTOGRAPHIE 2026 京都国際写真祭

開催日程  
2026年4月18日[土]— 5月17日[日]

プレス向け内覧会  
2026年4月17日[金]

<https://www.kyotographie.jp/>

### CONTACT

#### KYOTOGRAPHIE Office

〒604-0993  
京都市中京区久遠院前町672番地1

Tel. 075 708 7108  
Fax. 075 708 7126

### PRESS

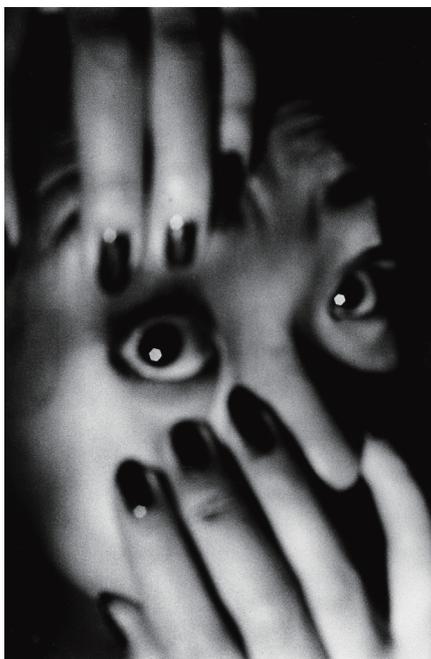
須田千尋 (CHIHIRO SUDA Inc.)  
chihiro@chihirosuda.com

市川靖子  
i@iroiroiroiro.jp

中村葵 (Kyoto PR)  
aoi.nakamura@kyotographie.jp

KYOTO  
GRAPHIE  
international  
photography festival

From Letter to St-Louis, 1990. © Daido Moriyama/Daido Moriyama Photo Foundation.



## 森山大道

### A RETROSPECTIVE

Presented by Sigma  
In collaboration with Instituto Moreira Salles  
and Daido Moriyama Photo Foundation

キュレーター:チアゴ・ノゲイラ

会場:京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階

作品と共に森山大道たらしめた雑誌や写真集などの  
メディアムにも焦点を当て、ラディカルかつ精力的な  
その軌跡を全方位にたどる

Juliette Agnel / courtesy/Galerie Clemantine de la Ferrière &amp; Photo Days



## ジュリエット アニェル

Presented by Van Cleef & Arpels

鉱物や植物を静謐に写し出すアニェルの作品は、聖なる場所に  
宿る見えざる力と大地の強靱なスピリットを呼び覚ます

What / Do / Do Please You / Do, 1981—2008 © Linder, Courtesy of the artist and Modern Art, London



## リンダー スターリング

Presented by CHANEL Nexus Hall

会場:京都文化博物館 別館

リンダーの作品は、芸術や文化における女性像の表象  
を挑発し、インスピレーションを与え、そして再定義し  
続けている

An Abundance of Plenty, 2024 © Thandive Muriu, Courtesy 193 Gallery



# タンディウエ ムリウ

Presented by LONGCHAMP  
会場: 菅田屋源兵衛 竹院の間

KYOTOGRAPHIE African Residency Program  
会場: 出町榎形商店街  
DELTA/KYOTOGRAPHIE Permanent Space

独自の幻想性を特徴とする代表作(CAMO)と、  
京都での滞在制作から紡ぎ出された新作を2会場で展示

030374b-86ff-49a9-b633-3a83a6633402, Les Ruines de Paris, 2024 © Yves Marchand & Romain Méfise



# イヴ・マルシャン & ロマ・メッフル

フランスの写真家ユニットが、現代の廃墟を大判カメラで捉えた作品と  
ともに、初期の写真機材で撮影した写真にAIのテクノロジーを組み合わせ  
た作品や、京都を被写体に制作した新シリーズを発表

© Sari Shibata



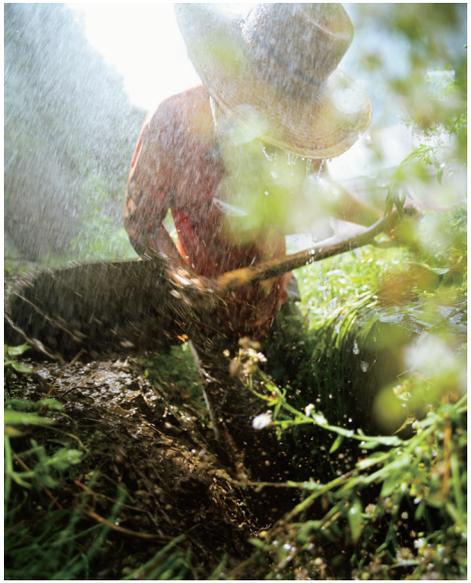
# 柴田早理

Presented by Ruinar  
Ruinar Japan Award 2025 Winner

会場: ASPHODEL

フランス・シャンパーニュ地方の葡萄畑で、  
葡萄が成熟するかのように時を重ねる女性を演じ、  
自然への畏怖や感謝、故郷に伝わる継承を織り交せる

© Atsushi Fukushima



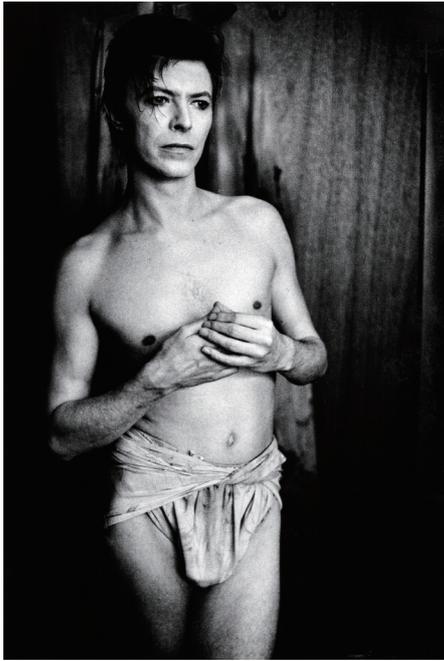
# 福島あつし

Supported by Fujifilm

会場: ygion

農業における夏の収穫は、激しい労働と転換の季節である。  
福島あつしが活写する、秩序と無秩序が同居する農の現場  
に噴き上がる、生と死のエネルギー

David Bowie, Chicago, 1980 © Anton Corbijn



## アントン コービン

Supported by agnès b.  
With the patronage of the Embassy  
of the Kingdom of Netherlands

会場: 嶋臺(しまだい)ギャラリー 西館

50年にわたり世界の名だたる著名人たちのポートレートを  
撮影してきた稀代の写真家の軌跡をたどる  
セレクトティブ・レトロスペクティブ(選集的回顧展)

© Fatma Hassona



## ファトマ ハッスーナ

会場: 八竹庵(旧川崎家住宅)

KYOTOGRAPHIEは、ハッスーナの写真作品のスライドプロジェク  
ションを通し、彼女の生き生きとした生き様に敬意を表し、パレスチナ  
の平和を願い、その「大きな死」を追悼します

Shine Heroes, 2018 © Federico Esold



## フェデリコ エストル SHINE HEROES

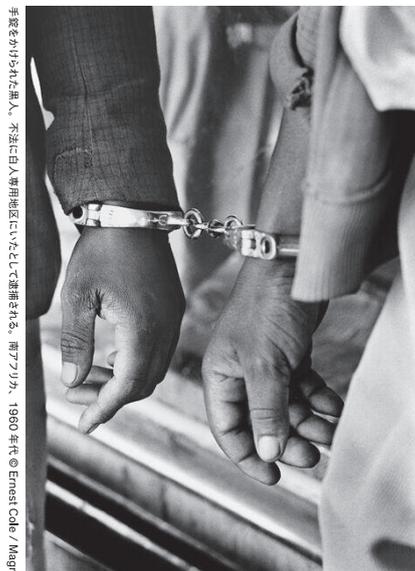
KG+SELECT Award 2025 Winner

会場: 嶋臺(しまだい)ギャラリー 東館

ポリビアの靴磨きたちとともに、周縁に追いやられたコミュニティを  
ヒーローとして捉え直し、そのアイデンティティと結束を映し出す

# EXHIBITIONS SOUTH AFRICA IN FOCUS

南アフリカの政治史と豊かな写真表現の伝統を体現する、  
南アフリカの3世代による気鋭のアーティストの作品と  
フォトブック・コレクションを展示



手錠をかけられた黒人、不法に白人専用地区にいたとして捕縛される。南アフリカ、1960年代 © Ernest Cole / Magnum Photos

## アーネスト コール HOUSE OF BONDAGE

Supported by Cheerio  
In collaboration with Magnum Photos

キュレーター: アンドレア・ホルツヘル

会場: 京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階

アーネスト・コールが遺した、南アフリカのapartheidを捉えた歴史的記録を本邦初公開

## A4 Arts Foundation

A4 Arts Foundationのキュレーターのショーン・オトゥールがキュレーションを行う「Photo book! Photobook! Photobook!」は、写真集というメディアを通して、1945年から今日までの南アフリカの歴史を描き出します。「South Africa In Focus」の導入ともいべき本展は、apartheid時代から、その後の民主化の時代にかけて重要な意味を持つ写真集を紹介し、この国の激動の歴史を理解するための核となる文脈を提示します。

Glady's, 2022 © Lebohang Kganye



## レボハン ハンイエ

Presented by DIOR

キュレーター: マリナ・パウレンカ

ヨハネスブルグを拠点とするレボハンにとって、物語を紡ぐ営みとは、言葉、写真、彫刻、そしてオーラル・ヒストリーを横断する多層的な表現である



Sophie on the winter solstice, Nature's Valley, 2020 © Peter Hugo

## ピーター ヒューゴ WHAT THE LIGHT FALLS ON

会場: 京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階

23年にわたり積み重ねられてきた膨大な数の撮影を通じ、生と死、そしてそのはざまにある儀礼について深く思索する

# KYOTOGRAPHIE:

## 京都物語 | 十二支

### 12th ANNIVERSARY BOOK

ご購入  
 KYOTOGRAPHIE オフィシャルオンラインショップ  
 青幻舎 オンラインショップ  
 Amazon  
 蔦屋書店、大垣書店、丸善ジュンク堂 などの一部書店



「KYOTOGRAPHIEのプログラムには、海外と日本の写真文化の架け橋というだけでなく、一貫したメッセージが読み取れる。それを一言でいうなら、他者へのリスペクトだ。人間の多様な価値観や感性、生き方を受け入れるために写真文化の豊かさを信じ、それをシェアすること。そのような姿勢は、利己主義と排外主義が蔓延するこの世界において、ますます切実に求められている。KYOTOGRAPHIEが私たちに与えるものとは何よりも、言い訳をして諦めることなく、まだ見ぬ花を夢見て歩いてゆくための勇気である」—— 竹内万里子 (写真批評家)

KYOTOGRAPHIE の12周年、そして干支が一巡する節目を記念して12周年記念本『KYOTOGRAPHIE: 京都物語 | 十二支』を刊行しました。本書とともに、フェスティバルの物語をひもときます。大きな夢から始まり、やがて写真の国際的な舞台へと成長した軌跡。共同創設者、共同ディレクターであるルシール・レイボーズと仲西祐介による個人的な語りを通して、人々、場、そしてフェスティバルを形作ってきた数々の瞬間を辿ります。アーティスト、キュレーターなど、各界の第一人者たちによるエッセイや証言が、その物語に寄り添います。写真と対話が満載の本書は、単なるアーカイブではありません。フェスティバルを支えるコミュニティへの賛歌であり、そのすべてを可能にしてきた方たちへの感謝の証でもあります。

初めてKYOTOGRAPHIEに触れる方も、これまでフェスティバルを訪れ同じ時間を歩んできた方も、この一冊を通して、唯一無二のフェスティバルを形作ってきた物語と思想に出会うことができます。

#### 寄稿

片岡真実 (森美術館館長、国立アトリサーチセンター長)、  
 フランソワ・エベル 国際写真センター (ICP、ニューヨーク)  
 理事、リシャール・コラス

#### 対話

小西啓睦 (miso | 空間デザイナー、セノグラファー)、山口  
 源兵衛 (帯匠「誉田屋源兵衛」十代目)、ウスビ・サコ (東京  
 都立大学法人教授・理事)、クロード・グルネツキー (「The  
 Equity Alliance」CEO兼マネージング・パートナー、「TRUE  
 Africa」編集長)、榮榮&映里 (写真家、「三影堂撮影芸術中  
 心」創設者)、ローレン・ハドラー (KYOTOGRAPHIEイン  
 ターナショナル・パートナーシップ統括)  
 肩書きは刊行時のものです。

#### PORTFOLIO

インマ・バレロ、ココ・カピタン、オマー・ヴィクター・ディオブ、  
 ジョアナ・シュマリ、プリンス・ジャサイ、JR、レティシア・キイ、  
 アルノ・ラファエル・ミンキネン、イサベル・ムニョス、パオロ・  
 ベレグリン、K-NARF & SHOKO、ンガディ・スマート、  
 マリアン・ディーウェン、ヨリヤス (ヤシン・アラウイ・イスマイリ)

#### 仕様

2025年4月12日 初版発行  
 サイズ: 245 × 195 × 50mm  
 製本: ハードカバー (糸かがり綴じ)  
 ページ: 460P  
 編集: 大野秀子 グレイス  
 ブックデザイン: 山田浩之 (RAS Inc.)  
 発行: 一般社団法人KYOTOGRAPHIE  
 発売元: 株式会社 青幻舎  
 印刷・製本: 株式会社サンエムカラー  
 価格: ¥8,800



# KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭



## KYOTOGRAPHIE × 森岡書店 (銀座)

12周年記念本

KYOTOGRAPHIE: 京都物語 | 十二支 特別展開催

日程 2025年12月23日(火) - 28日(日)  
13:00 - 19:00 (会期中、店休日なし)

会場 森岡書店  
〒104-0061 東京都中央区銀座1丁目28-15 鈴木ビル

2025年4月に刊行した12周年記念本の特別展を、東京・銀座 森岡書店にて開催いたします。会期中は、KYOTOGRAPHIE 2025のパネル展示、KYOTOGRAPHIE 2026の紹介とともに、12周年記念本とKYOTOGRAPHIE 2026パスポートチケット(特別前売り券)などを販売。また、12月22日(月)には今回の特別展を記念して、フランス・アルルで出会い写真作品に高い関心を持つ秋元梢(あきもとこうずえ)さんをスペシャルゲストを迎え、トークイベントも開催いたします。

本展を機に、イベント紹介、12周年記念本のブックレビューなどの掲載をご検討いただけますよう、お願いいたします。